

週間市場レポート (2022年3月14日~3月18日)

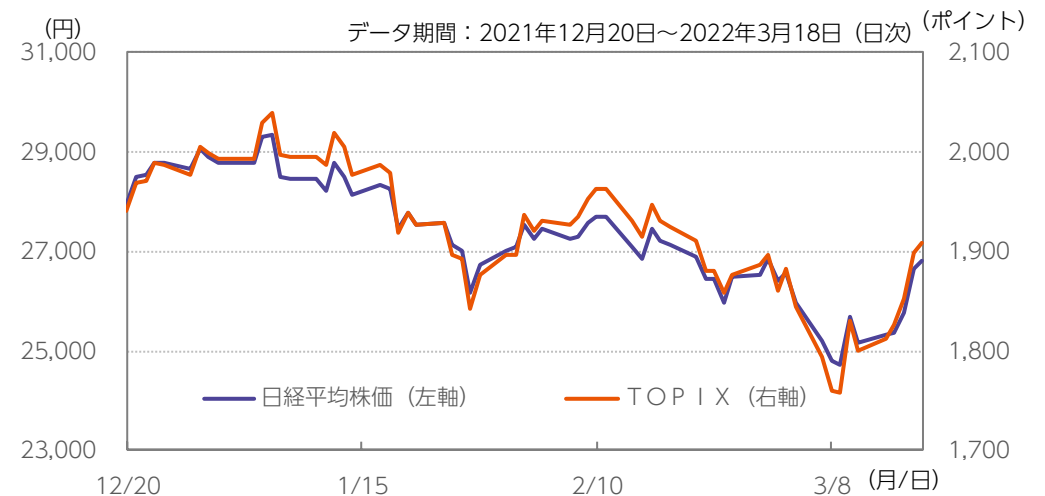
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/3/11	先週末 2022/3/18	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		25,162.78	26,827.43	6.62 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,799.54	1,909.27	6.10 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		32,944.19	34,754.93	5.50 ↗
S & P500種指数		4,204.31	4,463.12	6.16 ↗
ナスダック総合指数		12,843.81	13,893.84	8.18 ↗
ユーロ・ストックス50指数		3,686.78	3,902.44	5.85 ↗
S & P/ASX300指数		7,062.38	7,290.98	3.24 ↗
上海総合指数		3,309.75	3,251.07	▲1.77 ↘
MSCI AC アジア (除く日本)*		858.88	888.18	3.41 ↗
東証REIT指数		1,874.16	1,931.25	3.05 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		880.37	900.70	2.31 ↗
ASX300 REIT 指数		1,562.00	1,617.20	3.53 ↗
グローバルREIT (除く日本)*		209.34	214.47	2.45 ↗
日本10年国債 (%)		0.185	0.209	0.024 ↗
米国10年国債 (%)		1.992	2.149	0.158 ↗
ドイツ10年国債 (%)		0.249	0.373	0.124 ↗
英国10年国債 (%)		1.491	1.497	0.006 ↗
ドル/円		117.29	119.17	1.60 ↗
ユーロ/円		127.96	131.73	2.95 ↗
英ポンド/円		152.95	157.03	2.67 ↗
豪ドル/円		85.55	88.35	3.28 ↗
フィラデルフィア半導体指数		3,144.15	3,432.30	9.16 ↗
WTI原油先物 (ドル)		109.33	104.70	▲4.23 ↘
CRB指数		295.11	292.25	▲0.97 ↘

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

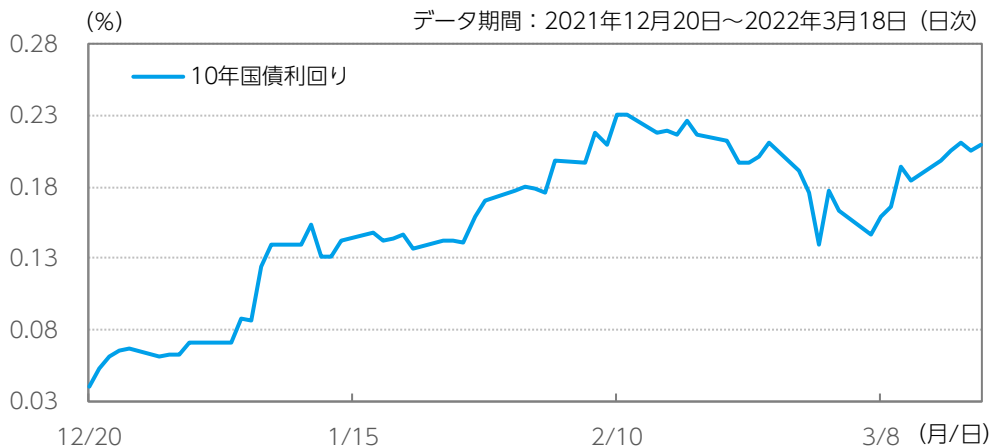
日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で大幅に上昇しました。米連邦公開市場委員会（FOMC）を週中に控え様子見ムードが高まるなか、ウクライナ・ロシア間の停戦交渉に進展が期待できるとの思惑や、前週末に岸田首相が『Go To トラベル』再開の準備を進めるとの考えを示したことなどが好感され、週初は緩やかに上昇しました。FOMCを無難に通過し、買い安心感が広がると、週末にかけて上昇基調を強めたものの、週末は利益確定売りに押される場面もあり小幅な上昇にとどまりました。なお、17-18日の日程で開催された日銀金融政策決定会合では、市場予想どおり大規模金融緩和の現状維持が決定されたことから、市場の反応は限定的となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

＜ 債券 ＞

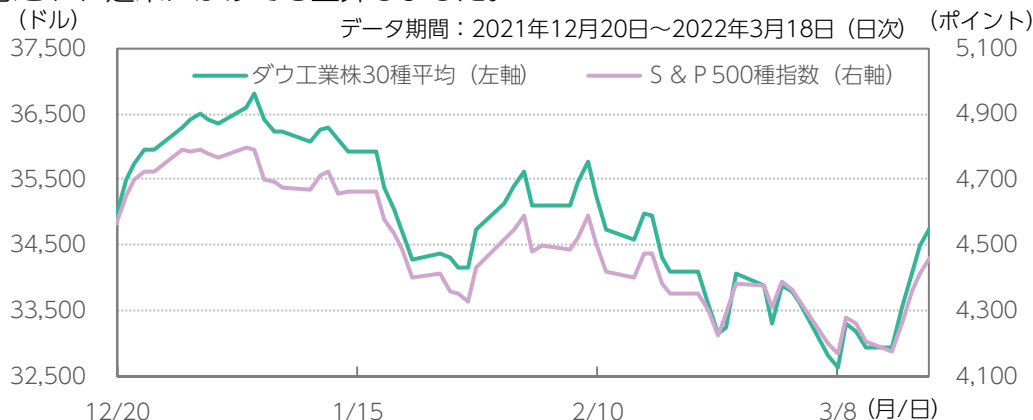
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で上昇となりました。原油の大量消費国の中国で新型コロナウイルス感染が再拡大し、同国の景気減速懸念から原油相場が下落すると、世界的なインフレ懸念が後退するとの見方が広がり、やや低下する場面もあったものの、米連邦準備制度理事会（FRB）が金融引き締めを加速させるとの思惑から、前週末比で金利は上昇しました。



3) 米国の株式市場

＜ 株式 ＞

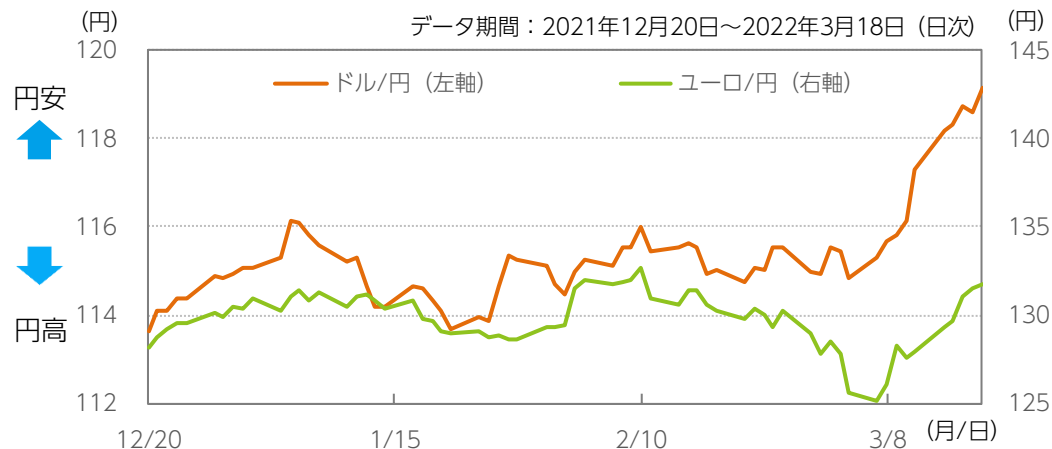
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で大幅に上昇しました。FOMCを控え、週前半は様子見ムードが強かったものの、FOMCで市場予想通り0.25%の利上げが決定され、記者会見でパウエルFRB議長が「景気減速リスクは高まっていない」と発言したことを受け上昇しました。その後も、デフォルト（債務不履行）が懸念されていたロシアの米ドル建て国債の利払いが実施されたことや、中国政府が景気浮揚策を打ち出すと表明したことなどが好感され、週末にかけても上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。FRBによる利上げをにらみ、米長期金利が上昇基調にあることから、今後の日米金利差の拡大を見込み、円売り米ドル買いが優勢となりました。昨今の原油高の高騰により、日本の貿易赤字が続いていることも円売り材料として意識されました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、FOMCを波乱なく通過したことなどから、日米両市場ともに大幅上昇しました。

ロシア・ウクライナ間の停戦交渉が続いています。ウクライナ代表団は停戦に向けた交渉の用意があるとしつつも、降伏またはロシア側の最後通告を受け入れはしないと強調しており、依然として双方の立場には隔たりがあり、交渉は難航しているようです。国内では、岸田首相が『まん延防止等重点措置』の解除方針と併せて観光支援事業『Go To トラベル』の再開を表明しました。国内における新規感染者数は緩やかな減少にとどまっているものの、経済活動の正常化が徐々に進みつつあります。

パウエルFRB議長は次回以降の会合で政策金利を0.5%引き上げる可能性を示唆しており、今後も米金融政策の行方が注目されますが、FOMCを通過したことから、株式市場には買い安心感が広がっています。今週の株式市場は、企業業績などを材料に個別銘柄が物色される展開となりそうです。ただし、引き続きロシアによるウクライナへの軍事侵攻や、停戦交渉の行方には注意が必要となりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>